

風の子



松山市立窪田小学校

R 7.7.18 No. 4

<http://kubota-e.esnet.ed.jp/>

うばい合えば足らぬ わけ合えばあまる

校長 大倉 匡仁

「明日の気温は体温並みの36度、これから数日間は熱中症警戒アラートが……」こんな天気予報が日常となり、「命に関わる暑さ」という言葉を聞いても世の中全体が、さして大変なことと思わなくなってしまっている気がします。ただ、水田が広がるこの久米窪田地区では、都会のコンクリートジャングルを吹き抜ける熱風とは違って、時折吹いて来る夏風に、いささかの気持ちよさを感じるときがあります。このような日の業間休みや昼休みなどには、暑さ指数が「屋外での運動禁止」の目安である「31」を超えていても、「教室の中にいなさい」との一律な指導ではなく、子供たちのストレス軽減のためにも、水分補給をしながら運動場の木陰での散策は認めるなどの柔軟な対応を取っています。

1学期の途中、放課後デイサービスや保護者の送迎の車が校門へと続く通学路や南門付近にたくさん停まる状況が続いていました。学級担任を通じて6月参観日の学級懇談会の折に、自分の足で歩く集団登校の大切さも含めて改善をお願いしたところ、関係の皆様がすぐに対応してくださり、見事に翌日から子供たちの安心・安全がしっかりと守られるようになりました。心からの感謝を申し上げます。私たちは、本当にすばらしい保護者や地域の方々に支えられていることを再認識し、教職員としてのできる限りを尽くして、しっかりと応えていかなければならないと決意を新たにしたところです。

よい・悪い、してもよい・してはいけない等々……。私自身、あらゆるものに細かな決まりを設けて、それを遵守するのが最良の策とは思っていません。互いが思いやりの気持ちを持って配慮し合い、気持ちよく過ごすことができるのが何より大切だと考えています。もちろん子供たちの命や安心・安全が最優先でなくてはなりませんが、集団生活を送る上では、我慢や節制が必要なときがあります。これにも一定の御理解をいただいており、現時点では、充電式の小型扇風機や携帯電話等の学校への持ち込みはしないという原則についても、御賛同いただけているものと認識しています。

本校では、特別支援教育の視点に立った温かみのある個別最適な支援を学校運営の核としています。教職員はもちろんのこと児童や保護者・地域の方々の、特別支援教育という名称に対する偏見を解消することから取組を進めています。通常学級においても、子供たち一人一人には違った特性があり、得手も不得手も一つの個性として認めていこうという考えのもと、個々に応じた支援を行っています。画一的な指導ではその子にとって課題であったことが、その子の特性に合わせ、困難と思われる部分のハードルを少し下げる合理的配慮を行うことで緩和・解決され、多くの児童の自己肯定感アップにつながっています。

ウクライナや中東など、世界ではいまだ争いが絶えません。経済においてもアメリカファーストなど一部の暴走?による混乱の兆しが見え隠れしています。相田みつおさんの言葉「うばい合えば足らぬ わけ合えばあまる」のとおり、豊かで広大な国土も奪い合えば双方が破滅し、欠乏感に陥ります。一切のパンですら分け合えば余りあり、心が満たされます。同様に、この世の中、特に学校の中では、物資面だけでなく、殊更、心の面において互いを思いやり、許し、認め合う気持ちを忘れないでいたいと強く思うのです。

キャリア教育

特別活動主任 高野 奈美

これから時代を心豊かにたくましく生きていくには、予測困難な将来を見据え、自分なりに知恵を出して努力したり新しい考え方や方法を生み出したりする力が必要です。そのため、低学年のうちから「自分はどうしたいのか」「次はこうしたい」など、自分の意思をしっかりと持ち、自分が望む生き方を自身で考え実践するような経験を積み重ねていくことが大切になります。本校では、学期初めと学期末のタイミングで「キャリア・パスポート」を活用し、各教科での学習や学校での活動等について、子供が自身の変容や成長を振り返っています。1学期の振り返りを行う中で、「自分は1学期こんなに成長していた。」「2学期は、○○を頑張ろう。」など、自分の生き方について子供たちなりに見つめ直す姿が見られました。先日、今学期分を御家庭に持って帰らせましたところ、保護者の方からの励ましや応援の言葉をたくさんいただき、これは、子供たちの自信や意欲の向上につながるものと感謝いたしております。今後とも、温かな見守りをよろしくお願ひいたします。

4年生の学習

4年主任 高村 和希

4年生の子供たちは、「窪田をもっともっとやさしい町にしたい。」「いつも登下校中に優しく見守ってくれる窪田の高齢者に恩返しがしたい。」と、自分たちが地域の方と一緒にできる活動を考える学習を進めています。そこで、高齢者の方のことをもっと知るために、地域包括支援センターやデイサービスセンターの方にお世話になり、高齢者疑似体験を行いました。「文字が見えにくいんだなあ。」「体が重くて思うように動きにくいね。」と、高齢者の生活の大変さを実感しました。体験を終え、「このような方々を見つけたら、自分にできる手伝いをしたい。」と感想を述べた子供たち。この体験を基に、地域の高齢者の方たちとどのような交流ができるかを話し合っている窪田っ子の表情には、優しさがあふれています。



外国語教育

外国語科主任 尾藤 洋子

3・4年生は週に1時間、5・6年生は2時間、イギリス出身のウィル先生と一緒に楽しんでいます。外国語の学習では、友達の意外な特技や、びっくりするような海外の生活などのたくさんの「出会い」があります。また、日本語にない音声や文字に親しみ、聞いたままそっくりに発音したり、言語の特徴に気付いたりと、それぞれが得意な感覚を働かせて学びます。子供たち一人一人が興味を追求し、外国語によるコミュニケーションの基礎を育んでほしいと考えています。



学校の教育活動全体で取り組む道徳教育

道徳科主任 名智 律子

道徳教育は、道徳科の授業を要とし、学校の教育活動全体を通して行われています。例えば、理科では「生命の尊さ」や「自然への愛護」について、体育科では「規則の尊重」について、外国語・外国語活動では「国際理解」についてなど、それぞれ教科等の特質を生かした学習を行っています。また、本校のGOGO学習では、地域の方にお世話になり、昔の遊びや窪田の町について教えていただいたり、米作りやサツマイモの栽培に協力いただいたりしています。子供たちは、そこで、「感謝」の思いを持ち、「礼儀」や「勤労」の尊さについて学んだり、「郷土を愛する態度」を養ったりしています。そして、仲間と活動することで「友情」も芽生え、よりよい人間関係を築いています。学校のみならず、家庭、地域との連携を図りながら、窪田っ子の更なる「道徳性」を育んでいきたいと思います。



夏休みの過ごし方

生徒指導主事 澤田 達也

子供たちは、あれこれ計画を立てながら、夏休みが来るのを指折り数えて待ってきたことでしょう。しかし、特にこの時期、浮ついた気分がもたらす不注意や軽はずみな行動が、大事故につながってしまう事例は少なくありません。せっかくの夏休みが台無しにならないために、学校では全児童に配付した「夏休みのくらし」を基に、楽しく安全に過ごすよう指導をしています。御家庭でも確認いただきますようお願いします。

夏休み中も、健康観察等を継続してこまめに水分を補給させるとともに、十分な睡眠や適度な運動、「早寝早起き朝ごはん」などに気を配るなど、お子様の体調管理に十分御注意いただくようお願いします。

【編集後記】

梅雨が明け、気温が上昇とともに、朝顔のつるもぐんぐん伸びて……。朝、水やりにベランダへ出た1年生たちから、「つぼみができた!」「水色の花が咲いたよ!」などと、昨日までとは違う新たな発見の報告が、教卓にいる私のところへ次々と届きます。1年生教室の窓越しに見えた、朝顔がたくさん咲いて美しく彩られたこの風景を、いつか懐かしく思い出してくれるかな。(中越)



窪田小
ホームページ